

市民活動は
まちの未来を
創造する

パートナー

発行 静岡市清水市民活動センター
指定管理者 特定非営利活動法人
NPOサポート・しみず
〒424-0943 静岡市清水区港町2-1-1
Tel 054-340-1010 Fax 054-351-5530
mail@shimizu-s-center.org
http://shimizu-s-center.org

想定3.5メートル！

2月22日に行われた「利用団体連絡会議」を利用し、津波避難訓練をおこないました。

清水市民活動センターは、清水港と巴川の間にあり、想定される津波の高さは3～5メートル。

隣のマンション棟までの避難経路をたどり、高さ約10メートルの3階避難場所まで全員が階段で移動しました。はじめて上ったという方も多く、貴重な訓練になりました。



防災ワークでは、「懐中電灯を快適な灯りにするには?」「単三電池を単一電池として利用するには?」といったお題に、グループでワイワイ取り組みました。スナック菓子にお湯を注いでポテトサラダを作る防災クッキングも好評でした。

令和2年度の事業

今年度もみなさまの活動に役立つ事業を企画しています。

情報	センター事業、市民活動や助成金情報などの発信 <ul style="list-style-type: none"> 情報誌パートナー（偶数月 発行） しみず市民活動センター情報（偶数月 発行） ホームページ運営 Facebookページ、ここからネットで発信 メールマガジン（毎月 配信） 地域メディアとの協働事業 <ul style="list-style-type: none"> FM-Hi! 出演コーディネート（偶数月第1木曜） エフエムしみず 出演コーディネート 	講座	啓発講座 みんなで楽しく、Let's! NPOゲーム 4月 人材・団体育成講座 NPO法人向け実務 事業報告書作成講座 5月 NPO法人の「事務のお仕事カレンダー」 6月 NPOの会計講座 活動計算書作成講座 7月 会計ソフト体験講座 7月 広報講座 「ここからネット」を活用しよう! 6月 団体のチラシ作成講座 9月 ステップアップ講座 資金調達講座 8月 認定NPO法人になろう! 12月 共催講座 地域の課題解決に向け活動をしている利用登録団体との共催企画（随時募集）
	相談		14周年記念事業 利用団体のみなさまに企画の段階から参加していただき、実施します。
連携交流	<ul style="list-style-type: none"> 認定NPO、NPO法人の設立や運営、解散等 NPO法人の定款変更や事業報告書等 団体の立上げや運営 助成金、資金調達 その他、市民活動全般に関する相談に対応します 	記念事業	
	<ul style="list-style-type: none"> 利用団体連絡会議 9月25日(金)/2月27日(木) 団体同士の交流、センター事業の報告 誰もが気軽に参加できる交流イベント 地域イベントとのコラボ企画、七夕café など 静岡の魅力を伝え楽しむ企画「まち・コレシ리즈」 企業の社会貢献活動の紹介や連携・協働 		
ブース	<ul style="list-style-type: none"> 選考委員会の協議による入居選考 事務ブース定例会・個別懇談によるサポート 相談等含め活動をサポート 		

※事情により予定を変更する場合があります。

令和元年度利用団体アンケート報告

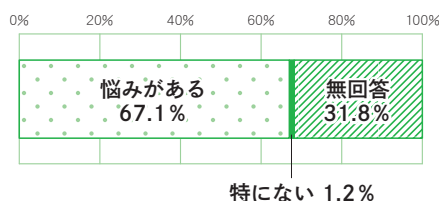
清水市民活動センターでは、例年通り利用登録団体のみなさまを対象にアンケート調査を実施しました。毎年、多くの団体が自由に記入欄に課題や悩みを具体的に記述してください。

この結果を参考に、令和2年度の事業を計画、実施していきます。

〈回収状況〉 対象団体数：264団体 回答：85団体 回収率：32.2%

団体が抱える課題や悩みごと

悩みがある	57団体
特になし	1団体
無回答	27団体



会員の高齢化と後継者不足、運営資金の確保の難しさを課題として挙げている団体が全回答の約67%を占めています。その他、団体の活動を知ってもらうための工夫や、人や資金を集めるためのアイデアを考えることが難しい、という声もありました。



団体の課題解決やステップアップのための講座の要望

NPO活動全般

- ・NPOを取り巻く全国の状況や新たな動きを知る
- ・NPOの代表者と市の関係者が一緒に話し合う機会

広報

- ・目を引くパネルやチラシの作り方
- ・SNSを活用した広報
- ・効率的な参加者集め

資金調達

- ・助成金獲得のための講座、書類の書き方など
- ・資金調達の具体的な方法

人材確保

- ・若い人に興味を持ってもらうためのアイデアや工夫
- ・成功事例を学ぶ

交流

- ・団体同士が情報交換や交流をする機会

その他

- ・環境問題や防災に関する講座



センターを利用したことによる良い変化

56%の団体が良い変化があったと回答しました

施設

- ・活動や連絡の拠点として活用している。コミュニケーションがとりやすくなり団体が活性化した
- ・会場を予約できるので定期的に事業や会合がおこなえる
- ・印刷機、帳合機、折機がそろっているので、資料作りが早くなった

他団体とのつながり

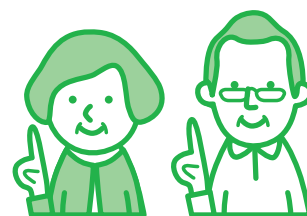
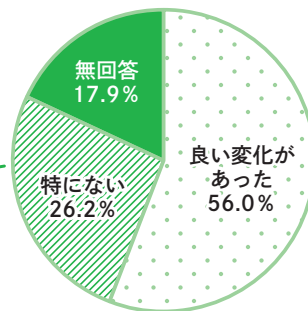
- ・周年記念事業に参加し、地域で活動する団体を知ることができた
- ・他団体と知り合い、連携することができた

運営支援

- ・センターと共催でおこなったイベントの参加者が過去最多となった
- ・マスコミとのつながりができた
- ・会計ソフトを導入し、センタースタッフのサポートを受けながら事務作業の効率化がはかれた
- ・(自団体が集めた)募金の寄贈先の選択肢が増えた
- ・事業告知、取材依頼、情報発信など協力してもらえた
- ・講座に参加し団体のホームページを作ることができた

気軽にできる運営相談

- ・法人の運営で困った時に相談ができた
- ・運営の後方支援をしてもらえることで意欲がわき、新規事業を立ち上げた
- ・助成金の紹介や、申請書類作成についてのアドバイスをもらった



アンケートでは、市民活動センターを利用することで団体に良い変化があったという回答を多数いただきましたが、一方で団体としての悩みも深刻化していることも実感しました。

活動歴が長い団体は、高齢化と後継者育成の難しさに直面しています。また、組織を維持するための財源の確保についても不安を抱えているようです。

市民の立場で社会の課題に向き合ってきた団体のみなさんの

思いをこれからもつなげていくために、市民活動センターの果たすべき役割も一層重要になってきます。

短期間で解決できる課題ではありませんが、今年度も資金調達や組織基盤を強くするための講座の企画、団体同士がつながる機会を充実させていきます。また、個別の悩みに寄り添い解決に向けて伴走できるよう相談機能の強化も図っていきます。

ぜひご活用ください！！

リレートーク 港の風 55

高校生の頃から「ディズニーランドに1回行くら、三保に10回行く!」と公言していたという筋金入りの「松葉オタク」増田さん。

松葉の研究と商品開発、三保地区との関わりについてうかがいました。

静岡大学 地域創造学環 地域経営コース3年
合同会社マツプロ。 増田 彩香



● 世界遺産を食す 美しい松原を遺す

松葉との運命的な出会い

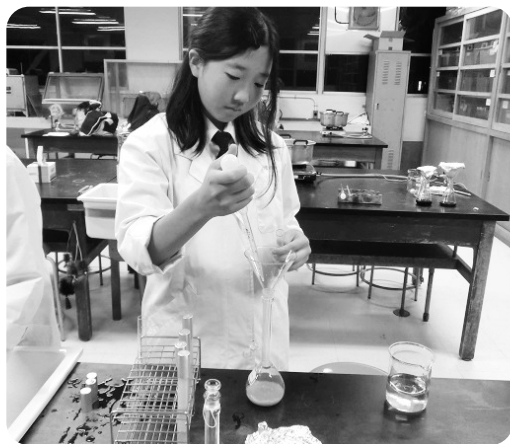
元々は栄養士になりたかったんです。静岡農業高等学校（以下、静農）へ進学。入学後すぐに有志サークル『松葉研究班』の門を叩きました。中学の時、担任の先生から見せてもらった松葉班の新聞記事が記憶にあったからです。まさにご縁ですね。

そもそも静農が松葉を研究することになったのは、三保地区からのラブコールがあったからだと思っています。三保松原では、松枯れを防ぐために、青い葉がついたままの松が年間1,500本も伐採されており、毎年45ℓゴミ袋で1万6,000袋もの枯れ松葉が廃棄されています。これらの有効利用は地域の課題となっていました。

生活の中に松葉を

松葉班では青松葉の栄養素に注目し、食品への転用を研究しました。成分を調べたところ、抗酸化作用、血管弛緩作用、アレルギー緩和作用など様々な効能が期待できる「ケルセチン」が含まれていることがわかりました。

地元企業と共同開発した製品は、松葉緑茶、松葉紅茶、松葉桜海老ひげ醤油、松葉入浴剤、食パン、シフォンケーキなど。ネット通販と手売りによる売り上げの10%は三保松原の保全のために地元に寄付しています。



リケジョだった増田さん。研究漬けの毎日…松食(まつしよく)という言葉が日本で、そして世界で定着することが夢だそうです。

研究を応援してくれた人と地域に恩返しを

正直言うと、最初から地域やまちづくりに興味があったわけではありません。三保も研究のための単なるフィールドという感覚だったと思います。

でも、松葉班の研究を応援してくれる三保の人に何か恩返しをしたいという気持ちが次第に大きくなっていきました。どうしたら地域に還元できるのか考えた結果、地域経営を学ぶという結論に至り、静岡大学地域創造学環に入学しました。

理系から文系へまさかの転身ですね(笑)

マツプロ。の理念とは

現在、大学生であると同時に『合同会社マツプロ。』(以下、マツプロ)のメンバーでもあります。マツプロは、「第一回世界遺産三保松原地域活性化プランコンテスト」で優勝した大学生が立ち上げました。主な事業は、松葉関連商品の企画販売と松葉の活用に関するワークショップや講演会の開催です。

三保松原と共生するサーキュラーエコノミー(循環型経済)のビジネスモデルを目指しています。

マツプロの仲間たち。主力商品である「松葉飴」は、一個につき10円が松原保全のために使われる寄付つき商品となっています。みほしるべ内や土曜市場で好評販売中!



松葉飴▶

商品開発を学びたい

学生であることはあまり前面に出したくないですね。商品で勝負したいと考えています。高校時代、「私たちが高校生だから買ってくれる人が多い」ということに気づいてしまったんです。もちろん、志や研究への投資的な意味合いもあるのだと思いますが…

だから今は、商品開発をもう一度学びなおしたいという思いがあります。就職もそちら方面をめざすつもりです。もちろん、今後も三保松原に関わる、マツプロの活動を続けることに変わりはありません。

三保愛がとまらない

実は大学2年の時に、地元の飯田地区から三保地区へと引越一人暮らしを始めました。もう三保が好き過ぎる!外から関わる「風の人」もいいですが、その土地に根づく「土の人」にしか分からない地域の良さもあると思います。

昨年は、三保と並ぶ日本三大松原(佐賀・虹の松原、福井・気比の松原)を制覇しました。これからも、どっぴりと松葉と三保に関わっていきます!

世界遺産に登録され、昨年3月には「みほしるべ」(静岡市三保松原文化創造センター)がオープンするなど注目の三保地区。

熱い思いのままに突き進む行動力がまぶしいですね☆

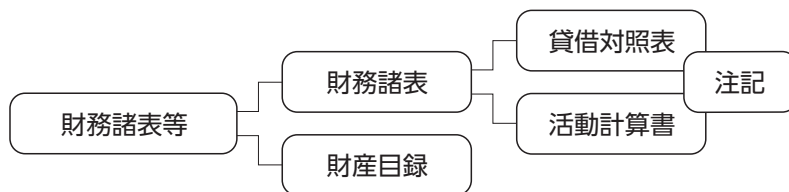


マツプロ。
ホームページ

NPOワンポイント

財務諸表の注記、お忘れなく！

4月1日に新年度を迎えたNPO法人のみなさん、総会に向け財務諸表等の準備は進んでいますか？



NPO会計基準による財務諸表とは、貸借対照表・活動計算書を指しますが、貸借対照表と活動計算書を補足する「財務諸表の注記」も必要です。

注記に記載する内容は10項目に限定され、さらに「記載義務」のあるものと「任意選択」できるものがあります。

記載の義務がある注記

- 重要な会計方針
- 会計方針の変更
- 使途が限定された寄付等の内訳
- 固定資産の増減の内訳
- 借入金の増減の内訳
- 役員やその近親者との取引の内容
- その他法人の資産、負債、正味財産の状況と、正味財産の増減状況を明らかにするために必要な事項

※該当しない項目については記載不要です

任意で選択することができる注記

- 事業別損益の状況または事業費の内訳
- 施設の提供等の物的サービス受入の内訳
- ボランティアによる役務の提供の内訳
(活動の原価の算定に関わるもの)

注記によって財務状況を一層わかりやすく利用者に提供することができます。また、情報公開を求められるNPO法人の信頼性を高めることにもつながります。

TOPIC

新型コロナウイルス感染症拡大にともないNPO法等の弾力的運用や財政支援等を求める動きが出ています。

要望を受け、内閣府は新たなQ & Aを発表しました。ご参照ください。

【内閣府HP】

新型コロナウイルス感染
拡大に係るNPO法Q & A



センターからのお知らせ

入居団体募集！

3月におこなわれた選考委員会において清水市民活動センター事務ブース入居団体が決定しましたが、若干の空きがあるため、再度募集をします。

- 利用料：5,230円／1ヵ月
- 備 品：事務用デスク・椅子(各1)・大型ロッカー
- 入居にあたっては審査があります。

詳細はセンターにお問い合わせください。

しみず・コレなあに？ その41



鳥居のうしろにコンクリートの堤防やクレーンのある光景は、初めてここを訪れた方の目にはかなり珍しい構図に映ります。

鳥居の横の案内板には「塚間の渡し」とあり、現在も文字通り水上バスの発着所として使われています。堤防に取り付けられた鉄の門は、朝夕船が着くたびに開閉します。

古くは17世紀の古地図に鳥居が描かれており、対岸の興津から塚間まで船で渡し、鳥居をくぐって御穂神社まで詣でたとあります。

ここには、神社に詣でる参拝者の入口と通勤通学のための入口という、非日常と日常の二つのゲートが一緒にあるのです。